

第2課 「バビロン時代の指導者ーダニエル」(ダニ1:8-9)

ダニエルは、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定めた。そして、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。神は、ダニエルが宦官の長の前に恵みとあわれみを受けられるようにされた。(ダニ1:8-9)

きゅうやく もくし けいじ しょ かんたん むずか しょ ぜんはんぶ しょ
旧約の黙示(啓示)書であるダニエル書は簡単でありながらも難しい書です。前半部の1章から
7章までは、私たちがよく知っているダニエルの夢の解釈の話、金の像を拝まず火の燃える炉に投げ込まれて生きて出てきた三人の同僚の話、陰謀によって獅子の穴に投げ込まれたダニエルの話など興味深くて面白い内容がありますが、一方、後半部の8章から最後の章までは理解しにくい様々な幻想と啓示が記録されています。

しょ み ちゅうい しょ つう じんせい せいこう
そのようなダニエル書を見るときに注意すべきことは、ダニエル書を通じて人生の成功ストーリー、特にダニエルの知恵を学ぼうしたり、ダニエルと三人の同僚のように勝利する信仰生活を学ぼうとしてはなりません。ダニエルは意志を決めて(心を定めて)一生懸命に祈り、勉強して成功の座、高い地位、指導者の座に上がった人ではありません。彼に知恵があったのは、神様がその時代に神御自身の意志を成し遂げるために用いようとダニエルに知恵を与えられたのです。

かみ よにん しょうねん ちしき ぶんがく りかい ちから ちえ さざ
神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を理解する力と、知恵を授けられた。ダニエルは、すべての幻と夢を解くことができた。(ダニ1:17)
かみ みな ちえ ちから かみ
ダニエルはこう言った。「神の御名はほむべきかな。とこしえからとこしえまで。知恵と力は神のもの。(ダニ2:20)

しょ しゅだい かみさま ぜんち しゅじん とうじ こだい きょうだい
ダニエル書の主題は「神様だけが全地の主人である」です。当時、古代の強大なエジプトとアッシャリアを倒して最高の強大国となったバビロンが占領した周辺の国々と捕虜として連れて來た人々には、バビロンの王こそ、全世界の主人のように見えたでしょう。しかし、神様はダニエルを通してその当時のイスラエルをはじめ、国々だけでなく今日を生きている私たちにも、創造主の神様だけが全地の主人であることを明らかにしているのです。

かみ きせつ とき か おう はい おう た ちえ さざ けんじや ちしき さざ さと
神は季節と時を変え、王を廃し、王を立てる。知恵を授けて賢者とし、知識を授けて悟りのあるものとされる。(ダニ2:21)

えいえん よ おう ふく
永遠のような世の王たち(ネブカドネツアル、ベルシャツアル、ダレイオス、キュロスを含む)
みずか おう い かみさま はな しそん はい
自ら王になって生きる神様から離れたアダムの子孫)はすべて廃され、そしてネブカドネツアル

王が見た強大な像(2章)とダニエルが見た四頭の大きな獣の幻(7章)を通して、これから起こる強大な国々(メディアとペルシア、ギリシャ、ローマ)も必ず崩れ、歴史の裏側に消えるようになるということです。それら(彼ら)を破って倒す「人手によらずに山から切り出された一つの石」、「人の子のような方」はまさにイエス・キリストです。ダニエル書はそのように王の王であるイエス・キリストの来られることと、イエスによって完成される永遠の神の国に関する記録です。

44 この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることなく、その国はほかの民に渡されず、反対にこれらの国々をことごとく打ち碎いて、滅ぼし尽くします。しかし、この国は永遠に続きます。

45 それは、一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と青銅と粘土と銀と金を打ち碎いたのを、あなたがご覧になったとおりです。大いなる神が、これから後に起こることを王に告げられたのです。その夢は正夢で、その意味も確かです。」(ダニ2:44-45)

13 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。

14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。(ダニ7:13-14)

神様だけが全地の主人であり、すべての人生の指導者であることを告白します。